

# 油症ニュース

2008年 第4号

全国油症治療研究班 2008年4月21日発行

漢方薬による臨床試験の結果がまとまりましたので、  
ご報告させていただきます。

## 油症の症状

油症は polychlorinated biphenyls (PCB) およびダイオキシン類が混入したカネミ油を摂食して発症した複合中毒です。1968年に発生してすでに40年が経過していますが、被害者の方の中には今でもニキビ様の皮膚症状や皮膚のフクロやできもの、口腔粘膜や皮膚の色素沈着、痰や咳などの呼吸器症状、しびれや頭重などの神経症状、全身倦怠感などの全身症状など多彩な症状に悩まされている方がたくさんおられます。また被害者の方の中にはPCBやダイオキシン類の血中濃度が健常人に比べて高い方がたくさんおられます。しかしながら、油症に関連する諸症状を軽減させる薬剤で、多くの方に効果を示したものははっきりと分かっていません。

## 漢方薬による臨床試験

そこで、皮膚症状に有効とされている荊芥連翹湯、咳・痰

に有効とされている<sup>ばくもんとうとう</sup>麦門冬湯、しびれに対して有効とされている<sup>ごしゃじんきがん</sup>牛車腎気丸、全身倦怠感に対して有効とされている<sup>ほちゅうえつきとう</sup>補中益気湯が油症の症状に有効であるかどうかの臨床試験を行いました。85名の方からご参加希望をいただきました。しかしいろいろな既往症のある方はお断りをいたしましたことをここに改めてお詫び申し上げます。結局27名の方にご参加いただき試験を無事終了することができました。

## 漢方薬の効果

臨床試験は、1つの漢方薬を6ヶ月間内服、次の6ヶ月は別の漢方薬を内服していただき、そのつど臨床症状の評価を患者さんに行ってもらいました。もちろん、漢方薬が合わない場合(下痢や不快感など)は途中で中止した方もおられます。その結果、<sup>ばくもんとうとう</sup>麦門冬湯という漢方薬が油症患者さんのせき・痰の症状に効果があると判定されま

した。油症患者さんが<sup>ばくもんとうとう</sup>麦門冬湯という漢方薬を飲むと、他の漢方薬を飲んだ場合よりもせき・痰の症状が軽快すると感じる傾向が見られたためです。残念ながら他の漢方薬を飲んだ場合、油症患者さんのそれぞれの症状にははっきりとした効果は見出せませんでした。

## 結論

まずもって、あわせて1年間内服という長期の臨床試験でしたが、ご協力いただきました患者様に本当に感謝申し上げます。ありがとうございました。おかげさまで、<sup>ばくもんとうとう</sup>麦門冬湯は油症の方々のせき・痰を軽快させることがわかりました。もちろん、お薬ですので実際に飲んでみると体に合わない方もいらっしゃるかも知れません。その際には早めに中止してください。

問い合わせ先： 古江 増隆 (ふるえ ますたか)  
電話 092-642-5582 / FAX 092-642-5600  
〒812-8582 福岡市東区馬出3-1-1 九州大学病院  
全国油症治療研究班 班長  
九州大学病院油症ダイオキシン研究診療センター センター長